



Saica NEWS

Saitama international cooperation action News

2019
Vol.2



JICA草の根技術協力事業 カムアン県



北部水道建設課 林主任・福島技師、南部水道建設課 濱野主任

JICA草の根技術協力事業『水道公社における上水道管路維持管理能力向上支援事業』の2019年度2回目の現地活動として、9月1～14日の2週間にわたって、カムアン県水道公社へ3名の職員を派遣し、活動を行いました。林主任、福島技師は昨年度に引き続き、濱野主任は初めての派遣となりました。今年度は、配給水管施工マニュアル案の内容確認、施工教育現場用ビデオ作成、耐圧検査、管継手工、写真管理、配給水管材料選定・管理に関する支援を行ってきました。カムアン県水道公社では、配給水管施工マニュアル案が他水道公社と比較して早く作成されていますが、マニュアル案に記載されている施工管理を現場で定着させるには、まだカウンターパートの理解が不十分であり、改善が必要な状況です。



OJT(管継手工 鋼管ネジ切)



今年度より採用した水道メーター (愛知時計電機製)



OJT(耐圧検査)



配給水管施工マニュアル案(表紙)



JICA草の根技術協力事業 ルアンパバーン県



経営企画課 高橋主任、水道計画課 落合主任、維持管理課 小出技師

2019年度第3回目の現地活動として、10月6日～26日にルアンパバーン県水道公社に3名の職員を派遣し、3週間にわたる活動を行いました。ルアンパバーン県水道公社は、今年6月のフォローアップ派遣において、活動の停滞が確認されていたため、今回の活動では今後の活動において、カウンターパート内で中心的役割を担うリーダーを決定することから始めました。主な活動内容は、カムアン県水道公社と概ね同様な内容を行ってきました。ルアンパバーン県水道公社では、配給水管施工マニュアル案の具体内容の作成に着手できていなかったため、埋戻工、耐圧検査など昨年度の活動内容を改めて現場OJTを行い、マニュアル案に記載する具体内容の確認と施工管理の日常業務への定着を目指した支援を行ってきましたが、カムアン県同様にカウンターパート及び他職員の施工管理に関する更なる意識改革が必要な状況です。



OJT(管継手工)



OJT(排水作業&残留塩素測定)



OJT(材料選定)



施工現場教育ビデオの1コマ

国際貢献等推進検討会議WG

国際貢献等推進検討会議（「検討会議」）は、国際貢献に関する局の取組を検討・決定するため、2011年度より開催しており、平成29年度からは、検討会議の下部組織としてワーキンググループ（「WG」）を立ち上げました。今年度のWGメンバーは、11課17名で構成されており、主にJICA草の根技術協力事業の実施内容の検討等を行っています。

2019年11月11日に開催した令和元年度第3回検討会議WGでは、2018年5月21日よりJICA技術協力プロジェクト（MaWaSU2）のチーフアドバイザーとしてラオス国に派遣中の経営企画課 園田主任を講師に招き、プロジェクトの最新の活動状況等を報告し、当局職員の国際貢献等推進事業の理解の向上を図りました。



WGの様子

水道の国際比較に関する研究委員会 （水道技術研究センター）

公益財団法人水道技術研究センターでは、世界の水道事情についての情報収集及び日本の水道事業の情報発信を目的として「水道の国際比較に関する研究」を行っており、本市も平成27年度よりこの研究委員会の委員として参加しています。今年度からは、業務部給水装置課永堀課長補佐が委員となり、年間3回程度の委員会に参加を予定しています。委員は計8名（学識経験者1名、水道事業体7名）となっており、11月20日に開催された第14回委員会では、国外情報発信として「世界の水道事故」、国内情報発信として「流域管理」「広域化・官民連携」「水質管理」「配水管理」「国際貢献」の分野の事例等が報告されました。

- JICA技術協力プロジェクトの詳細は
MaWaSU1 ⇒ <https://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>
MaWaSU2 ⇒ <https://www.jica.go.jp/project/laos/023/index.html>

第6回自治体等水道事業関係者勉強会

自治体等水道事業関係者勉強会は、水道分野の国際協力において、国内自治体等による水道協力の様々な取組や事例を共有し、各自治体の事業の改善に役立てることや、自治体による国際協力への参画を活性化することを目的として、2013年度より開催されています。「第6回自治体等水道事業関係者勉強会」は、神戸市にあるJICA関西で2019年12月5日～6日にわたって開催されました。経営企画課から2名が参加し、国内各地の水道事業体、JICA職員等の関係者約100名が参加しました。勉強会終了後には、約40名が神戸市水道局の奥平野浄水場を視察し、高低差を活かした配水システムの知見を深め、阪神淡路大震災の復興事業の一つである大容量送水管立坑内を見学しました。



勉強会の様子

大容量送水管立坑内
(Φ2400mm,地下約50m)

ラオス情報 （カオ・パンサー、オーク・パンサー）

ラオスには49の民族が暮らしていると言われており、その多くが敬虔な仏教徒です。僧侶が厳しい修行期間に入るのは、7月の満月の日（2019年7月16日）でカオ・パンサー（入安居）と呼ばれ、修行期間が明けるのは10月の満月の日（2019年10月13日）でオーク・パンサー（出安居）と呼ばれ、ラオス各地でイベントが開催されます。



ルアンパバーンでのオーク・パンサーイベントの様子

発行：さいたま市水道局
業務部経営企画課経営企画係
TEL 048-714-3185